

Fitness Industry Association

NEWS



発行:(一社)日本フィットネス産業協会
TEL.03-5207-6107
FAX.03-5207-6108
E-mail. info@fia.or.jp
http://www.fia.or.jp

年頭所感

あけましておめでとうございます。

会員の皆さまにおかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、平素より当協会にご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

昨年10月に発足したスポーツ庁では、オリンピックに向けた競技力向上と並んでスポーツによる健康増進施策にも注力することとし、「スポーツ無関心層へのアプローチ」や「スポーツによる地域活性化」などを掲げ、私達フィットネスクラブの持つ「様々な運動ができる場所というハード」と「知見豊かなインストラクターというソフト」の双方に関心を寄せていただいております。同庁による施策の具体化に向け、当協会としても積極的に関わり、国民の健康寿命延伸に尽力してまいります。

このような中、当協会は次のような取り組みを通じて会員企業の発展に貢献したいと考えています。

クラブ運営を担う管理者(店長・支配人などと称される職種)の技能レベルを評価する厚生労働省から受託しております「業界検定スタートアップ支援事業」は、平成29年度からの検定開始に向けての取り組みを進めてまいります。

また、3回目の開催を迎える「FIA全国スポーツクラブ駅伝」については、会員とスタッフが一体となってクラブの枠を超えた絆を醸成し、会員の定着・活性化に繋がる催事となるようFIAマスターズ水泳大会と共に発展させてまいります。

業界を取り巻く環境としましては、多様な業種の企業が「健康」をキーワードにそれぞれの得意な切り口でサービス提供を開始されております。私たちには、クラブという拠点と多種多様なスタッフを有していることを利点として、既存の枠組みや考え方にとらわれないサービス・商品を創出することで、健康の維持増進という社会の要請にこたえることが求められていると考えます。

会員企業の皆さまのご支援に感謝申し上げますとともに、今年も変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。

(一社)日本フィットネス産業協会
会長 田中 富美明



Topics

トピックス

新設クラブから見る業態傾向

総合型の新規出店が停滞し、ここ数年、小型店の勢いが増すフィットネス業界。2016年の始動にあたり、まずは2015年に一体どんな店舗がオープンしたのか、そして2014年との規模や傾向の違いについて述べたい。

また、昨年オープンしたなかでも特徴的なクラブをいくつか紹介する。

小型施設出店ラッシュ、中・大型店は1社1店舗程度に

昨年同様、出店数トップは株式会社カーブスジャパンが展開するフランチャイズ「カーブス」。ほぼ毎月出店し、着実に店舗数を増やし続けている。そしてカーブスに続き出店数が多かったのが、24時間営業の小型施設だ。なかでも株式会社ティップネスが展開する「FASTGYM24」、株式会社Fast Fitness Japanが展開するフランチャイズ「エニタイムフィットネス」、そして株式会社ウェルネスフロンティアが展開する「フィットネス・ジム JOYFIT24」の出店が目立った。2016年も引き続き3社の勢いに注目していきたいところだ。

2014年との比較では、カーブスを除く既述の3社により、新店におけるジム型の占める割合が増加した。スタジオ型については引き続きホットヨガの人気により同種の施設の増加が続く。わずかではあるが「その他」の割合が増えているのは、メディカルフィットネスや、後述する「丸の内ヘルスケアラウンジ」など、これまでになかったタイプの施設によるも

のである。

中・大型施設については、株式会社THINKフィットネスが運営するゴールドジムが定期的に出店。そのほかにいたっては、各社1~2店程度という結果になった。THINKフィットネスは2016年2月にも、浜松町に54店舗目をオープンする予定だ。

新店はそれぞれの個性光る

続いて、特徴のある店舗として最初に紹介したいのは、株式会社ジェイアール東日本スポーツがオープンした2店。これまでにない新しいかたちのクラブとなっている。

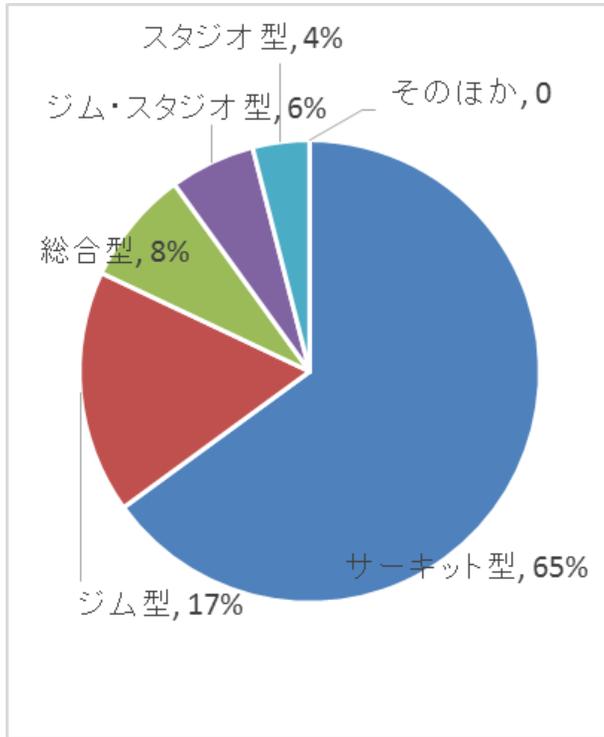
■ジェクサー・フィットネス&スパ新川崎

新川崎駅に直結する商業施設「新川崎スクエア」内にオープンした「ジェクサー・フィットネス&スパ新川崎」は、ハイセンスな家具やカフェの運営を手がけるサプライヤーにデザインを依頼し、同施設の備品などもすべて同社の製品でそろえるというこだわりよう。まるでアパレルショップのようなクールなデザインで、女性客から好評を得ている。備品については、お客さまから自身も購入したいというお問い合わせもあるようだ。

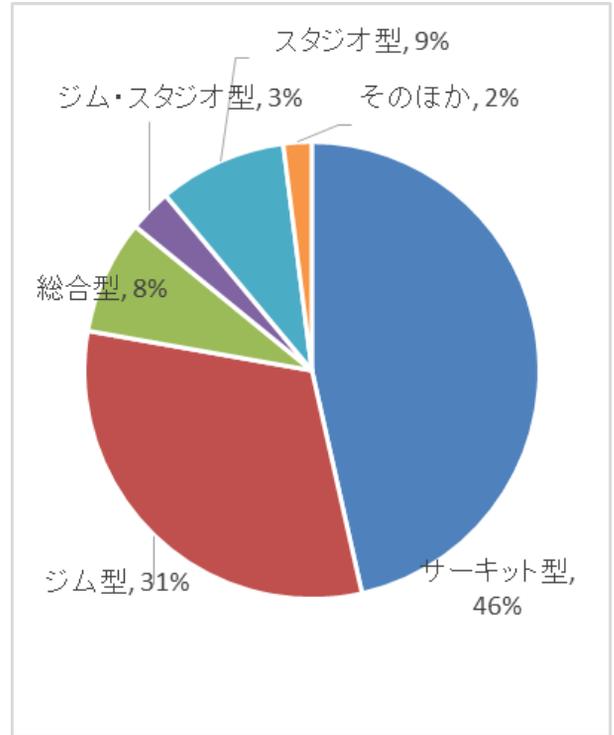
さらに同施設は未就学児をもつ母親を対象にしたお得な会員種別「サポートママ会員」を導入するなど、育児に忙しい30~40代の女性をターゲットとしたサービスを提供する。

同施設は、家にこもりがちな彼女たちに“ママ友”をつくる機会を提供し、コミュニケーションを楽しむ場としても利用してもらいたいと考えている。

◆2014年 新設クラブ



◆2015年 新設クラブ



■ THE JEXER TOKYO Annex

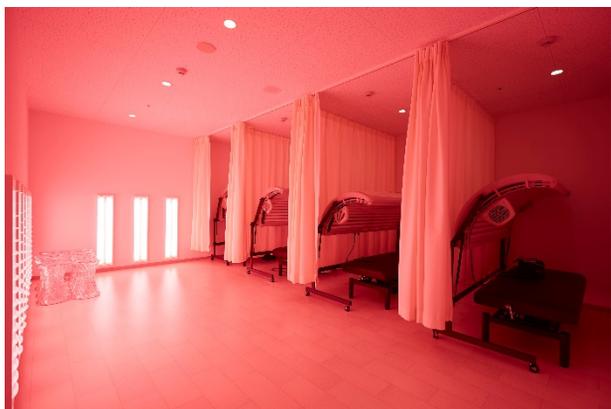
昨年12月にオープンしたばかりの「THE JEXER TOKYO Annex」は、東京・丸の内というビジネスパーソンが集う地にオープンした都心型クラブ。「オトナのフィットネスに新しい体験を」をコンセプトに、音楽やミニバーを楽しめるラウンジを設けるなど、大人の空間を演出している。仕事帰り、全面ガラス張りのフィットネスエリアで都心の夜景を眺めながらトレーニングを行い、終了後はミニバーでお酒をたしなむ。所得層が高く、忙しい日々を過ごす丸の内に集う人々の心をつかみそうだ。なお、同社ではミニバーを社交の場としても利用してもらうことを期待している。

■ OUTLAND

「OUTLAND」は、株式会社BEACH TOWNがプロデュースおよび運営を手がける、美しい自然が残る「昭和の森」(千葉県・千葉市)にある施設。屋内で行うヨガやピラティスレッスンなどのほか、自然を利用した「朝の森林ヨガ」やランニング、ノルディックウォーキングなど屋外プログラムも提供する。自然のなかでリラックスしながら運動することにより、身体のみならず心の健康も促すことを目的としている。



ジェクサー・フィットネス&スパ新川崎



FOLE フィットネスクラブ

※写真下はコラーゲンマシンルーム。
同時に複数名利用することができる。

■ FOLE フィットネスクラブ

大型施設の最後に紹介するのは「FOLE フィットネスクラブ」。パチンコ業を主流に温浴施設やレストランの運営などを手がける株式会社延田エンタープライズが新規事業として手がけた施設である。マシンはすべてテクノジム社製で統一。明るく広々としたジムに、黒やグレーを基調とする同社のマシンが映え、落ち着いてトレーニングできる環境が整っている。また、同施設では女性向けに無料で利用できるコラーゲンマシンルームを提供するほか、男性用には2種類のサウナを用意するなど、リラックス用のアイテムを充実させている。

● 個々に特化したサービス提供に力入れる小型施設

小型店に至っては冒頭に記したの4社の出店数が断トツであるが、続きホットヨガ専門店「カルド」「ホットヨガLAVA」が多く、引き続き女性の間でホットヨガのニーズが高いことがうかがえる。また、よりそれぞれの方に適したトレーニング指導を実現するために、DNA検査サービスなどを導入する施設もいくつか見受けられた。

■ エンパワメントフィットネスVORTE

「エンパワメントフィットネスVORTE」では、DNAキットを販売。口の粘膜を専用の綿棒でこするだけという手軽な方法ながら、30ページにもわたる詳細な結果を得ることができるという。その結果に基づき、より個々に適したトレーニングやダイエット指導が可能となるのだ。

■ 丸の内ヘルスケアラウンジ

新丸の内ビルディングにオープンした「丸の内ヘルスケアラウンジ」は、日本駐車場開発株式会社が初めて手がけるヘルスケア施設。医療機関の協力のもと、個々にあった

■ X BODY Lab

既述の施設とはやや赴きが異なるが、「X BODY Lab」は最先端技術の全身型EMS(Electrical Muscle Stimulation)トレーニングシステムを導入した日本初の施設で特徴が際立っている。全身の筋肉を同時に刺激する専用スーツを装着したトレーニングで、短時間ながら高いトレーニング効果を得ることができる。



ライフスタイルクラブ Terras

■ ライフスタイルクラブ Terras

本年2月1日に2号店が東京・三鷹にオープンする「ライフスタイルクラブ Terras」。昨年、1号店が東京・東久留米にオープンしている。こちらは旅行事業を主とするクラブツーリズム株式会社が運営を手がけ、エクササイズで身体を



丸の内ヘルスケアラウンジ

オーダーメイド型プログラムを提供する。「自分の健康を知る」「自分に合った取り組みから始める」「健康を維持するために続ける」の3つの流れに力を入れる同施設では、血液検査などのほか、健康に関する意識や価値観などもチェック。それぞれの方が“継続”しやすいプランを作成する。所得層が高く、流行にも敏感な人々が集う場として、施設デザインは、世界的に活躍するグラマラス代表の森田恭通氏に依頼。コンパクトながら、上質感あふれる空間で、特に心電図をイメージしたというメインカウンターのデザインが印象的だ。

動かすことはもちろん、カフェ&ラウンジで読書を行ったり友人同士で談笑したりと、コミュニケーションやくつろぎの場、さらには仕事をする場としても利用していただくことを目的としている。施設にシャワールームなどはない。ターゲット層を運動をこれまであまりしてこなかった60代以上の女性および仕事や家事、子育てなどに忙しい30代後半～40代の主婦層としているため、レッスンはほどよく汗をかける程度の強度に抑えているためだ。スタジオには大量に汗をかくことなく効果的に身体を鍛えることができるとして5台のパワープレートを導入し、サーキットトレーニングなどを提供する。

ラウンジには書籍棚を用意し、利用者は自由に閲覧することができる。この場を利用してクラブツーリズムならではの旅に関する無料セミナーや、茶和会などを開催する。

“つながり”を意識した施設増える

以上、2015年にオープンした施設の傾向や、特徴的な施設を紹介した。大型・小型問わずこれまでにないユニークなサービスを提供する施設が増えていることを感じる。小型施設においてはDNA検査など、多少の費用をかけても自身の身体について知り、より確実に効果に結び付けたい人々に向けたサービスが増えているようだ。そのようななか、「ライフスタイルクラブ Terras」や「THE JEXER TOKYO Annex」など、人とのつながりを生む基点となることを意識した施設も今後、増えていくことだろう。

(3)各委員会の活動状況(審議・報告)

= 社会渉外委員会 =

- ①FIA女性活躍プロジェクト(仮称)について
会員やスタッフの半数を占める女性の意見・視点を情報共有すると共に、FIAの運営や政策に意見反映する仕組みを設けるべく、女性スタッフによる会議体の組織を進めることとした。担当理事を選任し準備に入る。

はじめの取組として、「女性におけるキャリア形成」「産休取得や産休明け就業のあり方」などを想定。

- ②スポーツ庁との情報交換について

11月よりスポーツ庁(健康スポーツ課)との間でFIA活動内容説明の他情報交換を行っている。同庁は競技力向上だけでなく、「スポーツを通じた健康都市づくり」「スポーツ無関心層へのアプローチ」「スポーツ参画人口の拡大」なども掲げており、フィットネスクラブとの連携にも関心を寄せている。(事務局注:スポーツ庁の上記政策説明をFIAホームページに掲載しています。<http://www.fia.or.jp/act/administration/>)

- ③音楽使用料に関する申し入れについて

FIAでは平成27年1月より(株)イーライセンス(JASRAC以外の音楽著作権管理団体)からの音楽使用料支払い要請に対応して来たが、「管理団体間で使用割合(楽曲管理割合)を算出の上、現行支払額の範囲内で分割すべき」とするFIAの基本姿勢に基づく回答をすることとした。(事務局注:12月14日付け送達済み)

- ④「子どもおしごと博物館」依頼に対する対応の件
(一社)日本文化教育推進機構及び朝日新聞

Board Meeting

理事会報告

第173回理事会を12月11日(金)開催し、理事監事19名が出席した。

主な議事内容

(1)会員入退会審議

●入会

賛助会員

ディーエーピーネットワーク(株)(石川県河北郡)

営業内容:健康食品・ウエア等健康系企画商材

●退会

(株)ジャパンビバレッジホールディングス

営業内容:飲料自販機ベンダー

審議の結果いずれも承認された。

(2)後援名義申請

主催:(NPO)健康づくり推進機構BTB

催事名:健康チャリティイベント「命は宝」

会期:2016年3月12日(土)・13日(日)

会場:神戸市生涯学習支援センター(コムスタこうべ)

対象者:一般

内容:運動指導者による健康プログラム・心と体の癒しプログラム紹介など。

審議の結果後援を承認した。

メディアラボから提案を受けた小学生向け仕事紹介メディア「子どもおしごと博物館」への参加について協議。子ども世代並びに若い親世代への当業種・業界のアピールツールであり、これに取り組むことを前提に平成28年度計画及び予算に、予定費用100万円を、組み込むこととした。

= 事業委員会 =

- ①「FIA全国スポーツクラブ駅伝」

5ページ記事(FIAからのお知らせ)欄をご覧ください。

- ②「敬老の日にフィットネス！」

本年度開催報告

参加クラブ数:760クラブ

2015年9月19日(土)～21日(祝)開催

休日が並んだ(5連休)事も影響し、参加者数51,224名と、過去最高を記録した。

フィットネスクラブの社会的認知と高齢者層の取り込みを目的とした催事として継続して来たが、「高齢者層への浸透」という面では開始した20年前とは状況も変化しており、フィットネスクラブの意義を昨今の社会背景に沿ってより積極的・的確にアピール出来るようテーマを再考することとした。

- ③「FIAマスターズスイミング大会」

FIAマスターズスイミング選手権大会2016

開催日 2016年2月20日(土)21日(日)

会場:千葉県国際総合水泳場(習志野市)

2015年11月10日(火)募集開始 2016年1月5日(火)締切。
時期が競合する大会も出てきており、集客に向けてイベントを併催。

FIAマスターズスイミング選手権大会2017

2017年3月4日(土) 5日(日)を希望日として会場申込を行った。

④FIA賀詞交歓会

開催日:平成28年1月29日(金)

会場:弘済会館

前の時間に「クラブ運営技能検定試験制度説明会」を行うこととした。

●10:45 -11:30 検定制度説明会(厚労省担当課+FIA)

●12:00 -13:30 賀詞交歓会

来賓 経産省・スポーツ庁(予定)

⑤FIAセミナー

本年度FIAセミナー開催を準備することとした。

(案)[大阪会場]

日時:2016年 3月 4日(金)

会場:ベイコム総合体育館

内容:1. 経営者によるパネルディスカッション(経営層対象)

2. 60分~90分のセミナーA(経営層対象)

3. 90分程度のラウンドテーブルディスカッション

(支配人・店長レベル対象)

4. 30分程度 検定制度の説明会 他、懇親会等

東京会場についても検討。

= 調査研究委員会 =

「新規入会者対象調査。一事前期待と継続利用を可能にした要素」

専門委員によるデータ分析終了。

調査結果を、これからのクラブ運営にどう活かせるかという視点に立ったコメントを、各社委員の方々からコメントをいただき、巻末に掲載する形式での年度内編纂を目標に進行中。

4.3級の専門学校生受験(非従事者の受験と出題レベル)

②標準テキスト作成作業報告

第2回受験者へは「標準テキスト試行版」事前配布、学習の上受験とした。

実用版へ近づけるための内容改定の為、受験者によるテキスト評価(アンケート)及び理事監事意見聴取を行う。

③今後の予定

運営委員長より、各社が人的・財政的負担を伴って採用する制度とするためには内容の精査・再構成を必要とする部分もありとの意見があり、事務局・委員会にて調整することとした。

= 組織基盤拡充委員会 =

地方協議会等との連携。

①北陸フィットネスクラブ協会

2015年9月16日(水)

北陸フィットネスクラブ協会主催セミナーを後援した。

『ヘルスケアマーケティングコミュニケーション講座』

講師:マクヤンヘルスコミュニケーションズ 最高責任者: 西根 英一氏

北陸協会セミナー(FIA後援)

(平成28年年1月~2月)も調整中。

②北海道スポーツクラブ連絡会

FIA共催セミナー開催(2月中旬から3月中旬)に向けて調整中。連絡会の活動再開のきっかけも兼ねる。

③九州スポーツクラブ協議会

2016年2月28日(日)FIA共催セミナー予定。

= スポーツ・フィットネスクラブ・マネージメント検定(仮称)運営委員会 =

①実施した「第2回試行試験」概要報告。

2015年11月27日(金)東京・大阪 11月29日(日)福岡

目的1. 試験実施能力・第1回からの改善点の確認

(厚労省関係者視察)

2. 試験実施技術・手法の確認と面接試験の運用手法改善の確認

第1回からの改善・変更点の例

1. 映像試験受験者の為の試験方法予告

2. 映像を使用しない状況提示手法(漫画化)による試行

3. 受験者の待機時間(受けるべき試験と試験の空き時間)短縮

●女性の部(4チーム 28名)

1位=Tip宝塚レディース(ティップネス) 2位=足に覚えあり2号(セントラル)

3位=森ノ宮のんびりチーム(東急スポーツオアシス)

●KIDSの部(28チーム、91名)

大阪大会のみ行ったKIDSの部には4歳から14歳まで91名の参加があり、成人と同じ2.4kmコースを全員完走した。

1位=深江ジュニアボーイ・FU(BIG-S) 2位=甘納豆くらの

努力(オージススポーツ) 3位=深江ジュニアボーイ・KA(BIG-S)

クラブごとの平均周回数で競うクラブ対抗戦ではアイレクススポーツクラブ(ハクヨプロデュースシステム)が19周で総合優勝を飾った。

Information

お知らせ

1. 2015 FIA全国スポーツクラブ駅伝

2015年11月21日(土)開催の東京大会に続き、12月19日(土)には大阪大会を開催し、昨年年倍増の989名の参加を得た。

会場:長居第2陸上競技場

気温約10度と少し肌寒かったものの、概ね晴れの天候に恵まれ、声援に包まれる中、各クラブの力走が繰り広げられた。

●一般の部(81チーム 523名)

1位=セントラル太秦マツハ2号 2位=SSB(セントラル)

3位=GGR(セントラル)

●混成の部(54チーム 347名)

1位=アイレクストライ陸人 2位=Tip武庫FR(ティップネス)

3位=アイレクス春日井チーム2



2. スポーツ・フィットネスクラブマネジメント 技能検定(仮称)説明会・FIA賀詞交歓会

FIAが厚生労働省委託事業として構築中の「スポーツ・フィットネスクラブマネジメント技能検定(仮称)」についての説明会及び恒例のFIA賀詞交歓会を開催いたします。

日時:平成28年1月29日(金)

①検定試験制度説明会:10:45~11:30

厚労省担当課・FIAによる説明

②FIA賀詞交歓会:12:00~13:30

FIA正会員・賛助会員、他

ご来賓(予定)経済産業省ヘルスケア産業課
スポーツ庁健康スポーツ課

場所:弘済会館 4階 萩の間他

東京都千代田区麹町5-1

参加費:説明会 無料

賀詞交歓会 会員:お一人目 2,000円

お二人目以降お一人 3,000円

非会員:10,000円

ご案内と申込書はFIAホームページに掲載しています。

<http://www.fia.or.jp/wpcontent/themes/fia/pdf/2016/koukainkai.pdf>

申込締切:平成28年1月25日(月)

3. 九州スポーツクラブ協議会・FIA共催セミナーのお知らせ

フィットネスビジネスに携わる経営幹部・現場リーダーの皆様へ、クラブの会員・売り上げを増やす運営実践セミナーの開催。

【開催概要】

日時:平成28年2月28日(日) 13:00~17:10

場所:西鉄イン福岡(アクロス福岡前) 2F Aホール

福岡市中央区天神1-16-1 TEL:092-716-8024

対象:フィットネスビジネスに携わる経営幹部、現場リーダー
定員:50名(先着順となります)

参加費:

九州スポーツクラブ協議会会員およびFIA会員:3,000円

非会員:5,000円

※懇親会:セミナー終了後、懇親会を予定しております。
是非、ご参加下さい。

懇親会費:3,000円

18:00~西鉄イン福岡 1F ウォーターサイトアウト

詳細はFIAのHP参照(<http://www.fia.or.jp/act/seminar/>)

①「フィットネス・スポーツクラブが顧客定着のために 今一度見直すべきサービス提供を考える」

講師:松村 剛(一社)日本フィットネス産業協会事務局長

②「会員数増!売上高増!利益増!の実践講座 フィットネスクラブ経営 3大戦略セミナー」

講師:田村 真二氏 ウェルネスビス(株) 代表取締役

The Pulse



The PulseはIHRSAのアジア版ニュースレターです。日本語版はIHRSAとの提携に基づき、FIA(一社)日本フィットネス産業協会より、一部抜粋して会員の皆さまへ配信しております。

世界のヘルス産業は拡大を続ける



CBI(Club Business International)が振り返った=2015年のフィットネス産業のグローバルマーケットの傾向をご紹介します。

カナダ、ブラジル、英国、サウジアラビア、ロシア、中国、オーストラリアなどの大国においてフィットネス産業は着実に成長しています。

昨年のグローバルマーケットは新たなマーケットへと移行し、新しい機器やプログラム、さらにはビジネスモデルが登場し、各国とも実質的にマーケットを拡大した。結果、フィットネスに参加していなかった数2百万人にアクセスし、フィットネスを提供するに至りました。

過去及び最近発行されたIHRSAグローバルレポートにざっと目を通すと、フィットネス業界が達成した進展が確認されます。

例えば、2010年のレポート振り返ると、2009年の状況を反映し、クラブ数128,521件/会員数119,500,000人/売り上げ672億ドルという結果が報告されています。

また、2013年の結果を反映した2014年のレポートでは、クラブ数165,000件(2010年対比+28%) / 会員数138,700,000人(+16%) / 売り上げ782億ドル(+16%)という数字がそれぞれ報告されています。

そして、2014年の数字を反映した2015年のレポートによると、前年のレポートと比較して数字はさらに押し上げられており、クラブ数183,919件(+11.5%) / 会員数114,700,000人(+4.3%) / 売り上げ843億ドル(+7.8%)という結果を示しています。

既知のインフレーション下であっても、より広範囲なレポートからも読み取れるように、フィットネス産業がそうした状況に晒されても、世界中のより多くの人々にフィットネスは提供され、そしてそれらは常に“より良いもの”であり続けていることは明らかです。

2015年のグローバルなフィットネス産業において、最高の達成度を上げた事例についての情報については、2015年12月発行のCBI(Club Business International)を読んでください。

※12月号発行のCBIの関連記事が必要な方はFIA松村までご連絡ください。(matsumura@fia.or.jp)

(翻訳:松村 剛)

FIBO2016開催のお知らせ



今年の4月7日～10日の4日間、ドイツ連邦共和国のケルンにおいて、FIBO2016が開催されます。既にご存じの方も多いと思いますが、FIBOは、まさしく世界最大のフィットネス関連トレードショーです。

フィットネス関連のトレードショーとしては、米国のIHRSAが良く知られておりますが、民間のヘルス&スポーツクラブ周辺の機器やソフト、及びビジネスソリューションに特化されたIHRSAと比較して、FIBOはそれらを中心に据えつつも、メディカルやウエルネスビューティーさらにはボディービル等の市場も含み、一般の愛好者にもオープンになっている点が、大きくIHRSAと異なります。

また、コンベンションのスケールもヨーロッパ、米国のみならず、アジアのフィットネス先進国からも多くの出展が集まり、まさにグローバルコンベンションとして、幅広い情報やソリューションに触れることができる貴重な機会となっております。

このFIBOに参加する事で、フィットネス、ヘルスケアに関するダイナミックでフレッシュな情報に直に触れることを、是非ともお勧めします。

そうした情報を皆様に共有させていただくため、そしてヨーロッパ、アジアの業界団体との連携強化を図るためにも、FIAからも参加いたします。

つきましては、参加をご検討される方、もしくは参加を決めているけれど手続き方法がわからない方などへのサポートを現地でのサポートも含めてお手伝いさせていただきます。

特に、今年からTrade Visitor(業界関係者)の申込みフローが若干変更になっておりますのでご注意ください。

何かございましたら、お気軽に下記までお問い合わせください。

(一社)日本フィットネス産業協会 松村 剛
Email: matsumura@fia.or.jp TEL: 03-5207-6107



■ FIBO Profile (2015年実績)

- 来場者数: 1日に約30,000人 延べ 120,000人
内訳: ①クラブ経営者 ②クラブマネージメント従事者
③トレーナー ④Gexインストラクター
⑤ボディービル愛好者 ⑥フィットネス愛好者
⑦ボディービル関係サプリメントメーカー

- 特性: * FIBOのネーム由来→Fitness & Body Building
* フィットネスとボディービルに関連した総合展示会でヨーロッパ全土及び関係国から広く参加。
* 前半2日間は業界関係者のみ、後半2日間は一般愛好者も来場

Member's Board

会員掲示板

2016IHRSAコンベンション&米国クラブビジネス視察研修ツアー開催

2016年3月21～24日、米国フロリダ州オーランドにて開催されるIHRSA コンベンションへの参加と、米国の優良クラブを一遍に視察するツアーを企画します。

新しい業態や経営手法で成長しているクラブなど10施設以上を訪問する予定です。経営者や経営幹部の方から直接話が聞ける機会もご用意しています。

業界世界最大規模のトレードショーでは、サプライヤー各社が最新の機器やプログラムを展示します。コンベンションでは本ツアーご参加者のための日本語通訳付特別セッションをご用意しています。

クラブ運営に役立つ先進の情報が豊富に収集できます。フィットネスビジネス編集部が企画するツアーならではのベストな内容になっています。

【ツアー概要】

日時: 2016年3月18日(金)～25日(金) ※予定

行程: ボストン、ゲインズビル、オーランド

視察クラブ(※予定):

■ マイクロジム/プティックスタジオ

リープフィットネス、ブリック、リパブリックフィットネス

■ 独立系総合フィットネスクラブ

ゲインズビルヘルス&フィットネス

■ ヘルス&ウエルネスコンセプト

ザ・ヴィレッジ

詳細は、フィットネスビジネス公式サイトにて近日公開予定です。

HP: www.fitnessclub.jp/business

※状況により一部内容は変更となる場合がございます。予めご了承ください

企画主催: 株式会社クラブビジネスジャパン

企画協力: ブラボーグループ

お問い合わせ: 03-5459-2841 iwai@fitnessclub.jp

2015年のコンベンションおよび施設見学の模様



New Clubs

出店情報

1月のオープンクラブ

Junglesity

所在地: 東京都多摩市山王下2-2-2 GREEN WISE内
TEL: 050-3740-3245

FASYGYM武蔵新田

所在地: 東京都大田区矢口1-16-22 2階・3階
TEL: 0120-208-025

●FIA会員

エニタイムフィットネス今福西

所在地: 大阪府大阪市城東区今福西2-13-12
マジェスティックレジテンス 2F
TEL: 06-6180-5270

Issue

記事

運動量など蓄積、ヴァイテン、会員に提供

スポーツクラブ・ヴァイテンは豊田通商の健康管理サービス「からだステーション」を、10日から石川県野々市市内の店舗で導入する。活動量計や測定器などで計測した会員の運動量や体重などといったデータをサーバーに蓄積。会員は体調管理に役立てる。

(2015.12.5 日本経済)

静岡市に大型介護施設、トスコ、
常葉大と予防プログラム

静岡、東京など8都県で介護予防事業を展開するトスコ(静岡市、竹内豪一社長)は来月、一周80メートルの歩行訓練コースなどを持つ通所介護(デイサービス)施設を静岡市内に開業する。既存の直営店の4倍の広さで県内最大級という。常葉大学と共同開発の介護プログラムと運動トレーニングなどを組み合わせたメニューも導入。認知症の人が急増する中、事業拡大の拠点整備を進める。

(2015.12.12 日本経済)

ウェアラブル機器、2016年の出荷は4割増の1.1億台に

米IDCが現地時間2015年12月17日に公表した世界のウェアラブル機器市場に関するレポートによると、2016年における世界出荷台数は1億1110万台となり、2015年の8,000万台から約40%増加する見通し。ウェアラブル機器の年間出荷台数は今後28%の年平均成長率で伸び、2019年には2億1460万台に達すると予測している。

同社によると、現在最も一般的なウェアラブル機器の種類は、フィットネストラッカーなどの「リストバンドタイプ」。だが、今後さまざまなフォームファクターの機器が急速に増えていくと同社は見ている。

(2015.12.19 日本経済)

遠隔診療、ベンチャー先行、
ポート、高血圧など10症状仲介

情報サイトなどを手がけるポートは、血圧や尿酸値が高い人、肌荒れなど10症状を対象に遠隔診療の仲介サービスを始めた。パソコンやスマートフォン(スマホ)を通じて同社と提携する医師が診断して薬も処方する。薬はネットを通じて診察した医療機関から自宅や職場に直接配送する仕組みだ。

(2015.12.21 日本経済)

運動指導に独自資格、技術向上と人材確保狙う、介護
事業のエムダブルエス日高、来春にも社団法人設立

デイサービスなど介護事業を展開するエムダブルエス日高は、高齢者らへの運動指導方法を認定する独自の資格を設ける。来春にも一般社団法人を立ち上げ、事業を開始する予定だ。同社の施設は同業他社が視察に訪れるなど評価が高い。自社施設内での指導方法を資格化することで、業界全体での技術力向上と人材確保、流出防止につなげる。

資格の名称は「介護予防運動指導士」(仮称)。資格は3段階に設定する。それぞれ費用約3万円、約6時間の講習で取得できる「1級」「2級」のほか、費用約12万円、約12時間の講習で取得できる「マスター」を設ける予定だ。

(2015.12.22 日本経済)

生活習慣病、予防は学生時代から、
青学大はフィットネス施設、九大は授業「自炊塾」で単位

生活習慣病に今のうちから備えて——。学生にそんな働きかけをする大学が増えている。運動施設を開いたり病気について教える講座を設けるなど方法はさまざま。大学時代は親の管理下を離れることで食事や睡眠など生活全般が不規則になりがちで、生活習慣病の下地が生まれる時期。中高年からの病気と高をくくらず、健康的な生活で自己管理に努めたい。

青山学院大学では青山と相模原の両キャンパスに「フィットネスセンター」を設けた。専門のインストラクターが常駐し、トレーニングの支援、食生活の注意点を知らせてもらう取り組みなどを実施する。

九州大学は単位として認められる授業「自炊塾」を2年前に開講し、人気を集める。コンビニ弁当や外食に頼らず、自炊する能力を身に付けて自らの体調を管理することを目指す。

(2015.12.21 日本経済)

介護予防施設運営を受託、ミズノ、羽曳野市から

ミズノは22日、大阪府羽曳野市から同市の健康増進施設「LICウエルネスゾーン」の運営を受託し、2016年1月12日から営業を始めると発表した。床面積約100平方メートルの施設で、40歳以上の市民が将来、重い介護を受ける可能性を低減するため、体操などで健康な体づくりを進めるのを支援する。同社はこれまでも全国で運動用施設の運営を受託してきたが、小規模な介護予防施設を請け負うのは初めて。全国100ヶ所での受託を目指す。

(2015.12.23 日本経済)